

【議事録】

日 時	令和 7年 11月 27日 木曜日 13:30 ~ 15:15
場 所	障害者支援施設 百花園内 すわろう(食堂棟)及び、施設内各所
会議名	障害者支援施設 百花園 第1回地域連携推進会議
出席者	<p>【地域連携推進委員】※順不同</p> <p>百花園利用者</p> <p>百花園利用者家族 ※14時より参加</p> <p>前川 清美 様 (中河内2区自治会長)</p> <p>小長谷 英春様 (社会福祉法人玉柏会)</p> <p>奥山 真央 様 (静岡市立清水小島中学校教諭)</p> <p>気田 秀子 様 (清水区障がい者相談支援センターわだつみ)</p> <p>杉浦 正典 様 (株式会社ヒバリヤ)</p> <p>山内 将矢 様 (司法書士)</p> <p>【施設出席者】</p> <p>林 靖隆 (施設長)、 鈴木 仁 (部長)、 猿川 順也 (課長、書記)</p> <p>上野 真弓 (サービス管理責任者)、 鈴木 千尋 (司会)</p>
項 目	内 容
1. 開会のあいさつ	<p>【司会より】</p> <p>開会のあいさつと本日の会議への参加についてのお礼を伝える。</p>
2. 会議の目的の説明	<p>【司会より】</p> <p>地域連携推進会議の開催にあたっての経緯と目的について説明する。義務化の内容については、以下の四点であることを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域連携推進会議の年1回以上の開催 (2) 構成員による施設見学 (3) 会議議事録の作成・公表 (4) 地域交流の実施
3. 施設長あいさつ	<p>【林施設長より】</p> <p>以前は、施設のイメージとして「閉ざされた場所」と思われてきたが、百花園は地域に対していつでも見学やボランティアの受け入れ、また緊急時の受け入れを積極的に行ってきました。今回、義務化となった地域連携推進会議を通して、より一層地域と関りを深めたい。本日は、百花園のことを皆さんに知っていただき、有意義な会議となるようお願いしたい。</p>

4. 地域連携 推進委員 紹介	<p>【司会より】 構成員の紹介及び、構成員より自己紹介をいただく。</p>
5. 状況報 告、次年 度活動計 画(案)	<p>【鈴木部長より】 (1) 「障害者支援施設とは」の内容として、施設のサービス内容、事業の種類について基本的な知識の説明を行った。 (2) 「百花園について」の内容として、まずは花園会の沿革、百花園、宮前ロッヂ、下川原ロッヂの 3 抱点となった経緯について説明を行った。次に百花園の事業内容、支援・活動内容、また、令和 8 年度の事業計画案について説明を行った。</p>
6. 施設見学	<p>施設見学は上野サービス管理責任者が主となり、施設内誘導、設備や支援の説明を行った。</p> <p>【委員より】 《前川委員》活動で行っているステンドグラスの作品の販売は行っているか。 回答：地元の祭りや施設内での販売を行っている。今後空いたスペースを活用し、販売コーナーを考えている。 《気田委員》陶芸とステンドグラスの講師は同一か。 回答：別々で専門の講師を配置している。 《気田委員》入浴する場所はどこにあるのか。 回答：入所と通所の 2 か所で行っている。 《気田委員》入浴介助は同性介助で行っているか。 回答：完全には行えていないが、出来る範囲で行っている。</p>
7. 意見交 換、要 望、助言 等	<p>【委員より】 《前川委員》 地域のなかで、人口減少の歯止めの役割を担っている。以前の親世代は農業が多く、子が市街の企業へ就職となると、どうしてもそのまま地域を離れていってしまう現状である。共稼ぎが多くなっている中で、妻がパートで働ける受け皿として存在意義がある。市街から働きに来ている職員がこの地域に住んでくれたらありがたい。また、旧中河内小学校が来年 4 月に通信制の高校として開校予定。今まで防災の拠点として旧中河内小学校が役割を担ってきたが、その場所がなくなるのは不安である。広い土地を活かしその役割を百花園が担ってくれたらと個人的に思っている。</p>

	<p>《利用者》</p> <p>いろいろな福祉サービスを経験したが、ここが一番良い。要望を聞き入れてくれている。</p> <p>《利用者家族》</p> <p>両親の介護や、子育てが重なった時に障害のある妹をどうするか考えていた。母は「家で」と支援を続けたが、母が亡くなり施設を探していた。入所出来るまでの間は大変だった。デイサービスを利用した際に職員が良くしてくれた。父が隣の特養におり、近くで安心する。面会をいつでも許可してくれるので、それだけしっかり支援をしてくれていると感じる。親の介護をしている人でも未婚者の方も増えているようで、不安を感じている方が多いと感じる。近くに協力してくれる場所があると安心すると思う。地元の人に施設職員がおり、情報共有のしやすさも安心する。</p> <p>《小長谷委員》</p> <p>措置の時代からの同じ障害者支援施設として、(使用していないエリアの)4人部屋を見ると歴史を感じる。地域移行は今後どうしていくのか課題である。3年前の災害では、断水と停電が2週間続く経験をした。その際は企業や富士市の協力を得る事ができた。今後宍原荘としては、発電機を導入したこともあり地域の災害拠点として担っていく。ライフラインの確保など参考にしながらお互い協力していきたい。</p> <p>《奥山委員》</p> <p>利用者、利用者家族、地域の方、職員の皆が良かったと感じることの出来る場であった。障害者支援施設が3施設あることで、各施設を研修のように回ることで人材の確保に繋げられると感じる。子供たちのみを対象とすると難しい状況であるが、世代関係なく見学などの関りを持てる場にしていくなら良いと思う。支援級が対象となる児童が増えている現状で、学校関係者も多様性というキーワードを意識している。福祉に飛び込む子供も増えてきているので、交流の場を増やすことが大切と感じる。放デイに関して、資源が乏しい地域である。放デイや就労など、地域の子供たちの受け皿があると助かるのではないか。花園会には福祉の経験値から協力をしてほしい。</p> <p>《気田委員》</p> <p>百花園は、身体障害のみならず受け入れを行ってくれている。緊急ショートの受け入れも快く、受け入れを行っておりありがい。分園で空室を利用した短期入所の定員増についても、レスパイトやサービス利用の訓練として必要なため、市内では全体的に受け入れ枠が少なく、予約や利用が出来ない状況の中ありがたい。</p>
--	--

	<p>《杉浦委員》</p> <p>以前は、「すわろう(昨年度まで就労支援B型として運営を行っていたレストラン)」へ食材の納品を行っていた。その時の職員のあいさつなど気持ちの良い対応で接してくれた。その「すわろう」で弁当を購入した際も、「職員も同じように提供をしている」と飲み物を頂いた。職業柄、弁当の価格から採算を取のが難しいのが理解できる。施設長の職員への配慮が感じられる。利用者も働いている方も笑顔になれる素晴らしい施設。ステンドグラスや陶芸なども一般の方と一緒に行うなどすれば憩いの場になればより良くなる。働く職員が輝いている。それが原資ではと感じる。山間地という環境も売りになると思う。</p> <p>《山内委員》</p> <p>職業柄色々な方に関わるが、ここは安心できる。しかし気を抜いたらいけない。防災の拠点として機能すれば地域の方も安心する。後見人として、身内がいなくなったときにどう動けば良いか分からぬもあるので、一人では判断が難しい場面での協力をお願いしたい。ここを利用者の後見人の立場として不安なく安心している。</p> <p>8. その他</p> <p>《上野サービス管理責任者》</p> <p>良い感想ばかり頂けた。働くものとして日ごろの成果が伝わっていてうれしく感じる。10月より体制が変わりあらゆる面で試行錯誤を行っている状況である。次回もまた改善できたことを報告できればと思う。</p> <p>《猿川》</p> <p>これまで外部の方からの評価や意見を直接頂く場がなかったので、直接聞く場が持てたことは、職員にとって励みになる。</p> <p>《鈴木部長》</p> <p>福祉としては自信を持っているが、運営、経営の面では物価上昇、給与・処遇の見直し、人材不足など課題が多い。今後それぞれ専門分野の皆さんにアドバイスを頂いていきたい。</p> <p>9. 閉会のあいさつ</p> <p>【司会より】</p> <p>【傍観者（施設職員）】</p> <p>芹澤 真由美、山田 ゆう子、滝 札子、岩崎 翼、大塚 利恵子、 杉山 弘、川口 麻也、宮原 寛子、栗山 一恵、大石 園子</p> <p>以上</p>
--	---